

令和元年6月7日

養父市議会議員 深澤 巧 様

生活環境常任委員会

委員長 植村 和好

### 生活環境常任委員会調査報告書

閉会中において、当委員会の所管事務につき調査したことを次のとおり報告する。

#### 記

- 1 調査年月日 平成31年4月15日(月)
- 2 調査事項 千石田(大藪・養父市場地内)における新たな事業の展開について
- 3 調査内容

養父市大藪・養父市場地内の農地(通称「千石田」)で始まった「バイオメタンガス発電所」と「太陽光利用型水耕栽培施設」の2つの新しい事業について、現地調査を行った。

#### (1) バイオメタンガス発電所

(株)トーヨー養父バイオエネルギーが運営するバイオメタンガス発電所は、産業廃棄物処理業の許可を取得し、養父市内の肉養鶏や但馬牛、乳牛の畜産ふん尿や市内外の食品加工会社の食品残渣をメタン発酵させ、メタンガスを精製し発電する計画の施設である。

発電した電力は、電力固定価格買取制度(Fit)を活用し売電する計画であり、発電規模は、1,426KW(キロワット)/時間で一般家庭約1,800世帯分、年間に12,000MW(メガワット)を見込んでいる。業務に携わる正社員12人の雇用が予定されている。

また、事業展開上の副産物とも言える液肥や堆肥は農地に散布され、循環型農業の形成にも寄与できるとしている。

今後は、隣接した土地に(株)トーヨー養父農業生産法人によって建設中のハウス施設でトマトの安定生産・安定品質によるブランド化も計画されている。

本施設は平成31年3月28日に竣工し、現在は本格稼働に向けた調整段階であった。また、事業化にあたり、事業者と大藪区及び養父市は、3者による公害防止協定を締結している。

## (2) 太陽光利用型水耕栽培施設

特区事業者である「やぶファーム(株)」が運営する太陽光利用型水耕栽培施設は、遮光と換気を自動管理し、夏期は水耕溶液を冷却するチラー装置、冬期は加温するボイラーを装備する施設で、鉄骨ハウス2棟で約1haの面積となっている。

栽培品目は、ほうれんそう、春菊等で、年間に13から14作を作付し、156トンの生産を目標としている。雇用は正社員2名を含む39名である。

本施設は、平成30年3月に完成し1年を経過したが、水耕栽培による無農薬で安定して生産される商品には市場から堅調な需要があり、京阪神及び市内のスーパー等から高い評価を受けている。

## <まとめ>

バイオメタンガス発電事業が環境型産業廃棄物処理事業として持続するためには、資源循環の仕組みを確立することと産廃施設を受け入れる地元の理解と協力が不可欠である。家畜ふん尿や食品残渣など原料の確保、副産物である液肥や堆肥の受け入れ先を広めるためのPR、バイオマス産業都市の認定を生かした補助制度の活用など、市に求められる支援は多岐にわたる。また、3者で締結した公害防止協定が遵守されるよう監視・指導する責務もある。

太陽光利用型水耕栽培事業においては、季節によって偏る雇用や都市部への輸送手段及び経費について、同種他企業との新たな連携策など課題解決に向けた市の調整力が期待されている。

2つの事業は、中山間地域の活性化に大きな可能性を託された事業であり、国家戦略特区の指定を受け中山間地のモデルとして地方創生に取り組む本市の役割は大きい。